

議事

(4) 報告事項について

イ 中学校部活動について

中学校の部活動について（報告）

令和5年度より、町内の中学校部活動について以下のような取り組みを行っている。

◎教員の勤務時間終了時刻（16時30分）までに、部活動を含むすべての教育活動を終了する。

- ・原則週4日（平日＋土日いずれか1日）を活動日とする。
- ・年間を通して、「部活動ガイドライン」に準じた活動時間を適切に確保する。

1 部活動に関わる意識について

部活動に関わり、中学校が行ったアンケートから、以下の結果が得られた。

- (1) わたし（自分の子ども・生徒）は、部活動（クラブチーム）に一生懸命取り組んでいる。【A（あてはまる）＋B（どちらかといえばあてはまる）合計】

	令和5年7月	令和5年12月	令和6年7月
生徒 1年	96.8%	92.5%	90.5% (全校)
生徒 2年	94.6%	95.3%	
生徒 3年	87.4%	63.2%	
保護者 1年	94.5%	83.5%	90.9% (全校)
保護者 2年	90.0%	93.6%	
保護者 3年	92.7%	75.0%	
教職員	94.1%	87.1%	94.1%

部活動が終了した3年生の12月を除き、教職員、生徒、保護者全てにおいて80%以上が肯定的に回答している。「全ての教育活動を16：30までに終了する」としてから2年目の本年度においては、教職員、生徒、保護者全ての回答において90%以上が肯定的な意見となった。

- (2) わたし（自分の子ども・生徒）は、（16：30下校になって）、帰宅後の生活にゆとりを感じている。【A（あてはまる）＋B（どちらかといえばあてはまる）合計】

	令和5年12月	令和6年7月
生徒 1年	73.3%	85.8%
生徒 2年	73.2%	81.1%
生徒 3年	78.1%	91.5%
保護者 1年	77.6%	77.3%
保護者 2年	72.9%	76.0%
保護者 3年	79.5%	80.6%
教職員	66.7%	

保護者、生徒については70%以上が肯定的に回答している。特に3年生の生徒及び保護者については80%近くが肯定的に捉えている。

- (3) わたし（自分の子ども・生徒）は、（16：30下校になって、）帰宅後の時間を自分で考えて過ごせている。【A（あてはまる）＋B（どちらかといえばあてはまる）合計】

	令和5年12月	令和6年7月
生徒 1年	85.0%	89.0%
生徒 2年	79.5%	89.2%
生徒 3年	83.3%	89.9%
保護者 1年	62.7%	81.7%
保護者 2年	57.8%	66.3%
保護者 3年	77.4%	68.0%
教職員	66.7%	

学年によって肯定的な回答の割合に差が見られるものの、生徒は80%、保護者、教師の60%以上は肯定的に捉えている。生徒の評価に対して、保護者、教師の肯定的な割合が低い。生徒と保護者、教師の間で「自分で考えて過ごす」ことにたいする捉えに違いがあると考えられる。

2 中体連の結果

以下は令和4年度から令和6年度までの中体連で県大会に出場した部活動である。

【県大会出場】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
函南中	柔道男子団体・個人 卓球女子個人 陸上 水泳※ ※学校での活動無し	柔道男子団体・個人 柔道女子団体・個人 卓球女子団体・個人 テニス男子個人 テニス女子個人 ソフトボール 陸上	柔道男子団体・個人 柔道女子団体・個人 卓球女子団体・個人 剣道女子個人 陸上
東中	ソフトボール テニス男子個人 テニス女子 卓球男子団体・個人 卓球女子団体・個人 剣道男子団体・個人 剣道女子団体 陸上	ソフトボール 男子バスケットボール テニス男子団体・個人 テニス女子個人 剣道部団体・個人 陸上	男子バスケットボール 女子バスケットボール 男子テニス部個人 女子テニス部団体・個人 男子卓球部団体 女子卓球部個人 剣道男子団体・個人 陸上

年度による増減はあるものの、概ね同程度の数の部活動が県大会に出場している。

3 中学校部活動入部状況（令和6年6月20日現在）

	中体連夏の大会まで			秋以降		
	函南中	東 中	総 計	函南中	東 中	総 計
野球部	16	18	34	12	16	28
サッカー部	31	19	50	24	18	42
ソフトボール部	4	7	11	0	7	7
男子バレーボール部	23	24	47	17	7	24
女子バレーボール部	30	29	59	22	18	40
男子バスケットボール部	23	28	51	16	18	34
女子バスケットボール部	20	13	33	12	9	21
男子ソフトテニス部	26	26	52	16	9	25
女子ソフトテニス部	26	36	62	15	29	44
男子卓球部	19	23	42	11	15	26
女子卓球部	23	30	53	13	19	32
陸上競技部	29	31	60	14	19	33
剣道部	13	11	24	8	6	14
吹奏楽部	24	36	60	20	24	44
美術部	21	22	43	11	16	27
教養部		9	9		6	6
柔道部	15		15	9		9
箏曲部	11		11	9		9
総合部	6		6	3		3
部活動加入合計	360	362	722	232	236	468
生徒数	439	457	896	283	299	582
部活動加入割合	82.0%	79.2%	80.6%	82.0%	78.9%	80.4%

生徒数の減少等に伴い、ソフトボール部は1校単独でチームを編成できない。現在1校単独でチームを編成できる競技でも、練習体制の確保の難しさや今後の状況が心配される状況がある。

4 函南町の部活動地域連携・移行の現状について

函南町の既存団体である、文化協会、体育協会、スポーツ少年団などの構成団体に生徒の受け入れの可否を確認し、生徒のニーズに応じた団体とのマッチングを進めている。昨年度中は18団体から受け入れ可能との回答を得ていたが、今年度新たに3団体より受け入れ可能との回答があり、合計21団体となった。この情報については、1人1台端末を通して、町立中学校の全生徒に展開している。

なお、受け皿となる団体の内訳は、NP0法人函南町体育協会(10/17)、函南町スポーツ少年団(7/9)、函南町文化協会(4/55)となっている。

5 今後の課題

(1) 「部活動ガイドライン」に則った部活動の取組みについて

平成30年7月に策定された「函南町立中学校部活動ガイドライン」において部活動の活動日、活動時間については以下のように定めている。

- ① 休養日 平日：少なくとも週1日は休養日とする。 週休日（土・日曜日）：いずれか1日は休養日とする。
- ② 1日の活動時間 平日：長くとも2時間程度とする。 週休日（土・日曜日）：原則3時間程度とする。

これは、平成30年3月のスポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、平成30年4月の静岡県教育委員会「静岡県部活動ガイドライン」に則るものである。

また、部活動の意義・目的に関わり、以下のように記載している。

生徒が生涯にわたってスポーツや文化に親しむためには、日ごろの指導において、大会やコンクール等の結果のみを目的とするのではなく、それに向けた生徒一人一人の取組状況や体力・技能等の向上について、適切な指導や支援策を講じることが必要である。その結果、生徒自身が充実感や達成感を味わうことを通じて、その活動に自分なりの意義を見出すことが大切である。

学校は限られた時間の中で、生徒1人1人が自分なりの意義を見いだすことができるような働きかけをするとともに、この趣旨を地域や保護者と共有し共通理解の上で活動に取り組むことが必要である。

(2) 帰宅後の生活について

16:30下校にともない、生徒の帰宅後の生活にゆとりが生まれている。一方で、生徒と保護者、教師の間で帰宅後の時間の使い方について意識の差が見られる。現行の学習指導要領や生徒指導提要の中でも、自主的に判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つことが示されており、帰宅後の生活について、生徒自身が主体的に考え、自ら判断して行動することが求められる。

学習や運動、文化に触れること、また休息や余暇を含め生徒が適切に判断できるよう働きかけていくことが大切である。そのための活動する場とその周知等が課題である。

(3) 函南町の部活動地域連携・移行について

昨年度の第2回総合教育会議において、今後の方向性として「部活動指導員の配置」、「合同部活動の導入」、「函南町部活動地域連携推進協議会の設置」について提案した。

これらに向けて、学校教育課、生涯学習課、各中学校長による打ち合わせ会を実施した。単独でチームを編成することができない部活動や、練習体制の確保の難しさや今後の状況が心配される状況がある中で、合同部活動の導入は喫緊の課題である。合同部活動を実施する上での現状確認と課題、実施時期の検討、部活動指導員配置や地域の人材の受け皿開発に向けた意見交換を行なった。これらを整理し、令和7年1月実施予定の函南町部活動地域連携推進協議会（仮）において協議していく。

(4) 函南町地域連携推進協議会（仮）について

部活動の地域連携・移行については、令和4年12月にスポーツ庁・文化庁より発出された「学校部活動および新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」において、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備の必要性が示されているため、「函南町部活動地域連携推進協議会（仮）」において、児童生徒を主体とした視点を持ち地域の実情を踏まえた、函南町における部活動地域連携・地域移行の在り方を調査し、検討を進めていく。

また、「函南町部活動地域連携推進協議会（仮）」のメンバー構成については、学識経験者、文化協会、体育協会、スポーツ少年団、保護者の代表の方に参画していただく予定となっている。

【今後のスケジュール】

令和6年度：「函南町部活動地域連携推進協議会（仮）」設置要綱の整備

（12月補正予算：協議会委員の報酬等）

「第1回 函南町部活動地域連携推進協議会（仮）」開催

函南町の中学校部活動の現状報告など

令和7年度以降：「函南町部活動地域連携推進協議会（仮）」開催

地域の実情を踏まえた、函南町における部活動地域連携・地域移行の

在り方を調査・検討など

函南町部活動地域連携推進協議会（仮）を中心に、学校との連携を密にしながら、各学校の実情に合わせて検討していく。